



高齢者の暮らしを考える

高齢者が地域で元気に暮らせるよう、今年の4月から地域に住む人たちが生活支援やサロンの運営を行う総合事業が始まりました。

各地で住民同士の生活支援のしくみが動き始めています。

今回はその中でも6月に発足した「まかせて!!漕代支援隊」にお話を伺いました。



住民同士の支え合い

～「まかせて!!漕代支援隊」～

インタビュー



隊長 岡田さん

「まかせて!!漕代支援隊」の活動について教えてください。

各地区の自治会長などのメンバーを中心とした隊員が、草刈りや植え込みの剪定などの作業で、高齢者世帯への支援を行っています。

活動のきっかけは近所の高齢者の方からの声でした。お一人で住まわれており、自宅の庭の植え込みやまき垣の手入れが自分ではできなくて困っているとお話を聞いて、このような困りごとがあることに気づきました。漕代地区では高齢

者世帯が多く、同じように困っている人へお手伝いすることはできないかと思いいこの活動を立ち上げました。

地域の方の困りごとがきっかけだったんですね。

高齢者の方はどうしても年齢とともに足腰など体が少しずつ衰えてきます。そのため一軒家で住まわれている方は、庭や家のメンテナンスなどの力仕事は難しくなるなど困りごとが出てきます。いつまでも元気に地域で住み続けるためには、地域住民同士の助け合い・支え合いがやっぱり必要だと思います。

おかげさまで、依頼してもらったみなさんにはとても喜んでもらっており、私たちもそれが一番うれしいですね。まだまだ取組を始めたばかりなので、これからも色々考えていきたいです。

隊員同士も協力し合い、無理のない範囲で活動を長く続けられたらいいなと思います。みんなが住みやすいまちづくりのために、できる人が手伝えたいという『お互いさま』の気持ちを大事にしていきたいです。



副隊長 村田さん

利用者の方にもお話を伺いました。

実際に利用されていかがですか。



足腰も弱くなり、庭仕事ができなくなり最初は業者へ依頼していたのですが、頻りに頼むこともできず一時は家を手放すことも考えていました。そんなときに漕代地区でこのような活動が始まったという話を聞いて嬉しかったです。最初は、お願いをして申し訳ないなとも思っていたのですが隊員の方から「自分たちも年老了いたときは若い人たちの世話になるからお互いさまだよ」と言ってくれ、住みやすく良いまちだなと感じています。

自分も裁縫やボタン付けなど、できることで誰かの役に立って恩返ししたいなと思います。みなさんのおかげで主人や家族との思い出がたくさんつまった家で住み続けられますし、仲の良い近所の方とも一緒に過ごせて本当にありがたいです。

支援隊事務局

漕代公民館(漕代市民センター)内